

歴史上の総ての重大事件の犯人は「資本の意志」であると述べている。

ウクライナ戦争もケネディ暗殺も真の犯人は「資本の意志」である。

プーチンをウクライナ侵攻に追いやった者もオズワルドまたは他の者にケネディ暗殺をさせたのも真犯人は「資本の意志」である。

アメリカの通貨であり国際基軸通貨であるドルの自由裁量権(発行権)を FRB(連邦準備理事会)から政府(財務省)へ移行することを目的にした 1963 年 6 月 4 日のネディ大統領令(No.11110 号)は 5 か月 18 日後の 1963 年 11 月 22 日ケネディ大統領暗殺によって無効となった。

2021 年 9 月米軍がアフガニスタンを最後に中東から全面撤退をするとそれまでこの世の春であったアメリカの軍事産業が斜陽化し始めた。

実にタイムリーにプーチンのウクライナ侵攻(2022 年 2 月 24 日)でウクライナ戦争が始まり、500 日以上経過後もさらに長期化することになった。

破壊されたウクライナの経済インフラ復興の為に戦費を上回る資金は国際金融機関が支援することになり、連日のごとく欧米企業がウクライナへ殺到している。

自由主義、専制主義体制共に資本主義であることに変わりはない、すなわち「カネがモノを言う」。

常に戦争(Scrap)と復旧(Build)が資本主義の原理である。

では資本の意志の代理人は誰か？

国際基軸通貨(ドル)の自由裁量権を持つ FRB は世界経済を主導するアメリカの債権者であり、また世界の債権者である。

債務者が債権者に隷属するのは摂理である。

中東戦争終結によって債権者の債権が減少し、また債務者の債務が減少するのを食い止めると同時に、さらなる資本増殖の為に必要であったのがウクライナ戦争である。

国際基軸通貨(ドル)の自由裁量権を FRB(ユダヤ資本)から奪おうとしたケネディ大統領を、これまた資本の意志が許すはずがなかったのである。

「時事直言」の文章及び文中記事の引用をご希望の方は、
事前にマスタ U.S. リサーチジャパン株式会社 (FAX : 03-3956-1313) までお知らせ下さい。